

はじめに

日光市足尾は、関東地方の北部、栃木県西部に位置し、足尾銅山や松木溪谷で知られています。足尾は、1610年鉍山が発見されて以来鉍山開発が行われるようになり、1877年古河市兵衛が足尾銅山の経営を行うようになると、当時の明治政府の富国強兵政策を背景に鉍山事業と製錬事業は飛躍的に発展し、「足尾銅山」の町として知られるようになりました。

その一方、銅生産過程に排出される煙による大気汚染や廃棄物が渡良瀬河に流れ込み洪水より下流域に水質・土壌汚染が発生し、「足尾鉍毒事件」として広範な環境汚染を引き起こしました。1973年2月28日銅山は発見以来360余年で採鉍を停止し、その後一部を公開し「足尾銅山観光」などの観光地となっています。また、鉍山による伐採と煙害により荒廃した近隣の山々では国、県、企業とボランティア団体による植樹活動と環境学習が行われています。現在足尾は、人口減と高齢化による過疎化が進行しています。

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター（CPMS）は、これまで日光市国際交流協会による交流事業「食から世界を考える」の開催に協力してきました。2015年度からは、国際学部の外国人留学生、および留学経験日本人学生によって、栃木県大学・地域連携プロジェクト支援事業「外国人留学生と留学経験から見る日光の観光開発プラン『世界遺産+1』」を実施し、CPMSと日光市が協力しました。2016年度は、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターと日光市国際交流協会による主催事業として、「国際交流都市日光の再発見！—学生が考える日光のもう一つの地域発展プラン—」（通称日光プロジェクト）を実施し、日光・東照宮地区、中禅寺湖地区でフィールドワークを行い、シンポジウムを開催しました。さらに、2017年度は「国際交流都市日光の再発見—『まちづくりと観光開発』を留学生と考える」をテーマに、日光・東照宮地区、栗山・湯西川地区でフィールドワークを行い、シンポジウムを開催しました。

本報告書は、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター（CPMS）と日光市国際交流協会による2018年度主催事業として、「国際交流都市日光の再発見—『足尾の歴史を活かした観光地づくり』を国際的視野から考える」（通称：日光プロジェクト）をテーマに実施したシンポジウムの内容をまとめたものです。本プロジェクトは、宇都宮大学の留学生、海外経験のある学生と、バスで日光各エリアを回り、地元の人たちと交流しながら、国際交流都市日光、特に足尾の魅力を①国際観光開発、②国際交流、③環境学習、の3つの視点から再発見し、学生の気づきによる提言を行うことを目的にしています。本年度は、足尾において、現状のような歴史を踏まえ、どのような観光開発が出来るかという切り口で留学生と共に提言を行いました。足尾地域には歴史伝承などまち歩きガイドを行っている方の活動を間近で見て、聞いて、体験することで、国際的な目線での提言をしてもらい、シンポジウムを通し地域にフィードバックしました。また、国際交流協会の会員と留学生

が共にオリエンテーションやフィールドワークを行ったことで、双方が国際的な視点を養うことができるだけでなく、本プロジェクトで学んだことをそれぞれが地域に持ち帰り、在住外国人との地域づくりへつなげる狙いがありました。

本年度の活動内容は、11月11日にオリエンテーション、足尾地区の銅山坑道観光、足尾歴史館、11月17日に足尾地区の松木溪谷、古河掛水倶楽部、5グループのフィールドワーク調査を行い、12月15日には「国際交流都市日光の再発見！」をテーマに宇都宮大学でシンポジウムを開催し、日光市足尾の歴史を活かした観光地づくりについて国際的視野から意見交換を行いました。参加者は、日光市関係者、アジア、欧米など留学生、日本人学生など約70名でした。第1部の講演では、山田功氏（足尾まるごと井戸端会議代表/日光市国際交流協会副会長）による「足尾地区における歴史とまちづくり」、本学部の高橋若菜准教授による「足尾銅山鉍毒事件の今日的意義」の2名の講師がお話をしました。第2部では、「国際交流都市日光の再発見！」をテーマに留学生によるプレゼンテーションを行いました。5グループのフィールドワークの調査結果を基に、留学生・日本人学生の視点から、国際交流都市日光の魅力、まちづくりと観光開発および課題について発表し、2人のコメンテーターがコメントをしました。その後の質疑応答では、国際交流都市日光市足尾の新しい地域資源や観光資源の可能性について議論し、日光のまちづくりと観光開発について宇都宮大学外国人留学生・日本人学生と共に考えました。

本プロジェクトは、「宇都宮大学地域連携・貢献活動支援事業」の支援を受けております。

最後に、本プロジェクトおよび本シンポジウムでお世話になった、日光市国際交流協会の会員の皆さま、学生のインタビューにご協力いただいた、足尾地区のかじか荘、銅山観光、文化交流館、かんも茶論、足尾歴史館、足尾に緑を育てる会、森びとプロジェクト、観光客の皆さま、テープおこしをしていただいた宇都宮大学国際学部学生の小野崎仁さんなど関係者の方々に心からお礼を申し上げます。

2019年3月

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

副センター長 重田 康博